

ふるさとのお話

失せ物ものがもどってくる

松本の観音さん

話してくれた人

鈴木房吉さん

(74歳)

新町



今は鉄筋のお堂となった
松本の観音さん

左にあんだ繩を供えて

あの頃は、そう、わしがまだ子どもの頃のことなんだがな。今のよう
テレビもないし、夕食が済んでからの楽しみといえば、いろりのはたて
おじいさんの昔話を聞くことだ
た。それこそまばたきもせず、息を
こらして聞き入っていたもんだよ。

松本の観音さんは、33番観音とも
言われ、いつの頃からか、失せ物を
した時には、自分で繩をなつてお供
えすれば、失くなった物が出てくる
という伝えがあつてナ。そうそう、
繩をなうには、なぜか逆の左にあん
だものでないとだめなんだよ。

そんなわけで観音さんのお堂には
いつも左にあんだ繩が供えられてい
たもんだ。わしはやったことはない

が、何でも入の話では、ご利益が
あるということだ。

村内の農家の人だがな、ある時、牛
に引かせるスキが失くなってしまっ
た。どこをさがしてもどうしてもな
い。そこで観音さんをお願い申し
たところ、次の朝、農機具置場にちゃ
んとあつたそうナ。

その人は喜んで、観音さんにお礼
のお酒を供えたということだ。

この欄で昔話を語ってくれ
るお年寄りを探しています。
あの方が知っていそうだと
いう情報でも可。連絡先は市役所
広報聴課 ☎51-0123(内線528)

市立博物館 展示物 紹介

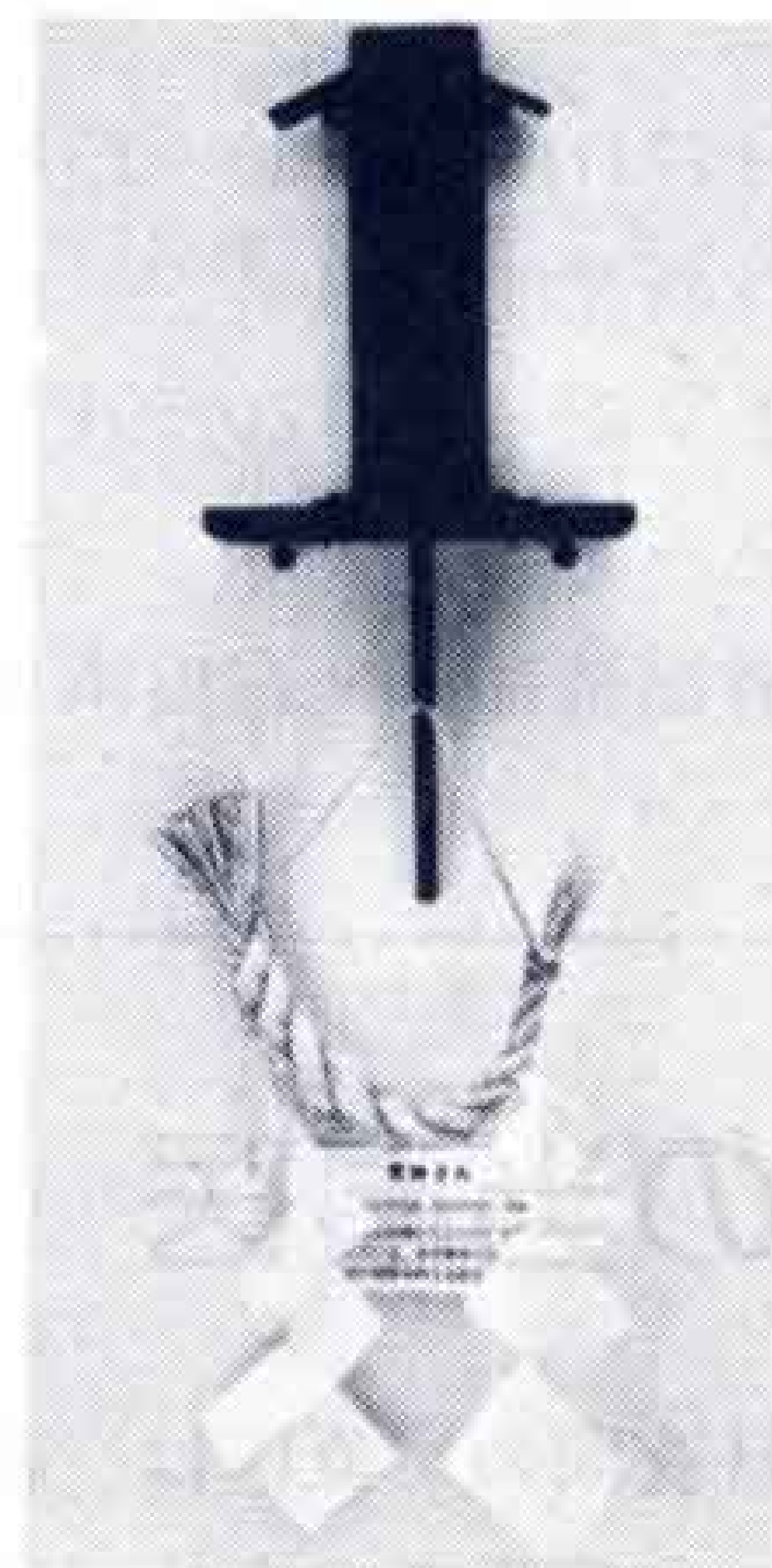
びんずる 賓頭廬坐像 (複製)

賓頭廬さんじや しやか尊そん者は釈迦の弟子のひとり
で、人々の病いを治す仏として親し
まれ、身体の悪い所をなでると効きめ
があるといわれてきました。実物は
東滝川の妙善寺みょうぜんじにあります。



おびんずるさん

こうじん 荒神さん



古くから、
かまどの神と
して家々の台
所にまつられ
ていました。

また農業の
神としても信
仰され、苗や
稲束を供える
風習がありま
したが、今で
は次第にすた
れています。

このほど富士市立博物館常設展解
説書「富士に生きる・紙のまちの歴
史と文化」を発行しました。(B5
判カラー95頁)どうぞご利用下さい。
お求め先は富士市立博物館
定価 1部600円。



市内の家庭から出たごみの量は、燃せるごみ4万3 312
ト、燃せないごみ7,447ト、合計5万759トありました
(昭和56年度)。この処理をするために8億2,200万円の
経費を要しました。

これは市民1人当り3,900円、1世帯当りでは1万3,986
円になります。ごみ処理には、こんなにも多額のお金
がかかっているのです。

しかし、こころ配りでごみの減量と経費の節約は可
能です。特に生ごみの水切りはぜひ励行して下さい。

—すすめよう ごみの減量・資源化—